

キーワードは「誇り」

沖縄県立開邦高等学校 2年生 與崎 夢乃

香る潮風。優しい波の音。燃え盛る太陽も刻々と姿を消し、群青色の海が遠く広がる。日曜、日も沈みかけていく時刻、私は海岸線に走る道路をジョギングする。こうして沖縄の自然を全身で感じ、エネルギーへと変換するのだ。先祖が愛し、守ってきた沖縄を今度は私たちが守り継がなければならない。そう強く心に思う時間でもある。

「どこからの情報？こんなデタラメなプレゼンじゃあ何も伝わらない。」

昨年の秋、外務省のプログラムでアメリカのワシントンDCにおいて、沖縄の歴史と文化を現地の高校生にプレゼンテーションという形で紹介する機会を得た。沖縄の魅力を世界に発信するとてもいい機会だと思い、同行したメンバー全員が意気込んでいた。しかしプレゼンの内容を班全員で吟味し、いざプレゼンをしようとする、私たちは沖縄について自信を持って紹介することが出来なかったのだ。当然のことながら担当の先生から厳しい指摘を受け、自分たちが沖縄についていかに無知であるかを思い知らされた。その時、沖縄の歴史、文化やその魅力を世界に伝えることは、結果的に沖縄の発展にもつながるのではないかと思うようになった。沖縄における観光業の重要性を改めて強く感じた時でもあった。

沖縄の観光発展に必要なとされることは三つある。

一つは、沖縄の魅力を世界に発信する機会を増やすことだ。国内外から多くの人が沖縄に来てもらうためには、沖縄の地がいかに魅力的なのか知ってもらう必要がある。より多くの人々に発信するツールとしてSNSは最も効果的だ。また話題性を創ることで多くの人々の関心を集めることができる。そのためには発信する側である私たち沖縄県民が、沖縄の魅力についての知識を持っていなければならない。また、これまで沖縄を訪れた人々が何を求めてこの地を訪れたのか、そしてどのようなところに魅力を感じたのか、沖縄に住む私達では気が付くことができない沖縄の魅力も研究するべきだ。つまり、魅力発信には発信する側の準備が必要なのである。

二つ目は、学校教育で沖縄の歴史や伝統文化についての深い知識と理解を得る機会を設けることだ。小学校中学年の時に授業で学んで以来、沖縄の歴史について学校で触れることはほとんどなかった。またユネスコの発表で絶滅の危機とされている「しまくとぅば」についても、冊子を数回配布されたことがある程度で。その内容に授業で触れたこともなかった。言語は文化であり、アイデンティティの根幹をなすものだ。これだけでは失われつつある沖縄の文化を守り、継承することは難しいだろうと私は危惧している。

ボリビアにある「もう一つの沖縄」ともいわれる「コロニアオキナワ」では、学校の授業で琉歌を作ったり、三線を弾いたりして、沖縄に住む私たち以上に沖縄の文化に深く触れている。私は中学生の時、「世界のウチナーンチュ大会」に参加するために沖縄を訪れたコロニアオキナワの日系三世の中学生と交流する機会があり、その時衝撃を受けた。彼らは沖縄の文化に通じ、その魅力を私たち以上に知っているように感じた。また、沖縄県のことを「母県」と呼び、自らのルーツが沖縄にあることに私たち以上に誇りを持っているのだ。

沖縄の魅力を発信するには、私たち自身が沖縄に誇りを持っていなければならない。県民ひとりひとりが沖縄の歴史と文化について正しい知識と深い理解を持てば、ウェルカムんちゅの育成にもつながるだろう。

三つ目は、訪れる観光客が沖縄で長期滞在できる環境を整え、より多くのリピーターをつくる工夫をすることだ。

昨年沖縄の年間入域観光客数をはじめハワイを超えた。現在進行中の那覇空港滑走路増設に伴い、更に多くの国々から人々が沖縄を訪れるようになる。必要なのは、自文化と異文化を理解し、あらゆる民族又は宗教を信仰する人々が過ごしやすい環境を整えることだ。那覇空港国際線ターミナルには、イスラム教の礼拝所が設けられ、ムスリム

の人々の生活習慣を考慮する工夫がなされている。長期滞在型観光客を増加させ、リピーターを更に増やすには、あらゆる観光施設や商業施設でこのようなきめ細やかな工夫を行うべきである。

そこで注意しなければならないのは、観光の意義を考えることだ。観光の意義とは、人々にとっての生きがいや安らぎを生み出し、生活のゆとりと潤いに寄与するものだとされている。沖縄の未来の観光業には、観光業発展のための開発ではなく、沖縄の豊かな自然や歴史、伝統文化を大切に後世まで受け継ぎ、沖縄の魅力をより発展させることが大前提だ。沖縄を訪れる観光客は、何を求めてやってくるのか。日本の他の都市と同じように開発され、都市化された沖縄なのか、それとも、自然や文化に沖縄らしさを色濃く残す沖縄なのか。開発はもちろん重要なことだが、その方向性を誤ると、取り返しのつかないことになるのではないだろうか。私は、私の心のエネルギー源でもある沖縄の自然が、永遠に残されてほしいと願っている。日々発展を遂げる沖縄の観光業の更なる発展は、すべて沖縄県民である私たちの郷土愛にかかっている。

沖縄の魅力を再確認した私たちのプレゼンの後、一人の学生にこう言われた。「みんな沖縄が大好きなんだね。そんな沖縄に私も行きたい。」